

特定非営利活動法人自閉症くらし応援舎 TOUCH

TOUCHは、自閉症や発達に障がいのある方とその家族の方が地域で幸せに暮らせるお手伝いをしたいと福岡市東区箱崎で活動しています。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

自閉症支援に興味のある学生さんやボランティアさんも大歓迎です。

2009年 夏秋号

2009年 7月10日 発行

目次

TOUCHとは・・・	P1
PLTだより	P2
スマイルポッケの毎日	P3
リレーエッセイ	P4～5
井上教授の徒然	P6
箱崎探索	P6
書籍紹介	P7
ご存知ですか	P8

自閉症とは・・・先天性の脳の障害です。【社会性】【コミュニケーション能力】【想像力】に障害があります。時と場合に適した行動・人との共感や協調・臨機応変に！などは、自閉症の人には困難です。

TOUCHとは・・・タッチの活動をご紹介します

- 本人支援・・・PLT 【発達検査と評価・個別療育指導教室・個別相談】
スマイルポッケ【特性に応じた個別の療育的支援通所施設】
- 家族支援・・・各種相談
母親（一般）学習会・父親学習会・懇談会・相談会
きょうだい児サークルとの連携 【すてっぷ】
- 人材育成・・・実習及び研修生の受け入れ、研修会等への講師派遣
その他・・・啓発活動
正会員・・・年会費4,000円 【情報交換・ピアカウンセリングが目的のMLがございます】

- 賛助会員・・・年会費：個人2,000円【何口でも可】、団体10,000円【何口でも可】
【ご希望の方にはメールにて情報配信サービスがございます】

相談（初回相談は無料）・検査・療育・通所の利用料はホームページに掲載中です。
詳細・ご予約は、お電話にてお問い合わせください。

これからの学習会・懇談会の予定

母親学習会は家庭での実践例を織り込んだ講義で支援方法を学び、後半は同じ悩みを持つお母さん同士で意見交換できる場があればと企画しています。父親学習会は毎回講師をお迎えし、父親としてできる事などをお父さん方が学び考える場になればと企画しています。

7月4日(土)	★「将来を見据えた 地域資源の活用」(終了しました)	講師:大堂 直幸氏
8月	～学習会はお休みです～	
9月11日(金)	☆「困った行動と、その原因」	講師: TOUCH職員
10月30日(金)	☆「家族について」～きょうだい、父親、祖父母について考えよう～	講師: 馬場由紀子氏
11月 未定(土)	★「子どもの発達段階に応じた接し方」	講師: 川原孝幸氏
12月4日(金)	☆「適切な行動を伝える・適切な行動へ移行する」	講師: TOUCH職員
1月29日(金)	☆「思春期・成人へむけて」	講師: TOUCH職員
2月 未定	☆「福祉制度や進路について」	講師: 原口良一先生
3月 未定	★「進級、進学、進路について」	講師: 黒田慶子先生

★お父さんのための学習会・懇談会 ☆お母さん（一般）のための学習会・懇談会

◎日時等決まりたいHPへ掲載いたします。またはお電話でお問い合わせください。

発行元
特定非営利活動法人
自閉症くらし応援舎
TOUCH 広報部
福岡市東区箱崎1-19-9
優箱崎ビル1F2号
Tel&Fax(092)632-8150

HP
<http://www.npotouch.jp/>
E-mail
npotouch@ybb.ne.jp



PLT教室だより



現在、PLT教室やスマイル・ポッケでは、4月よりたくさんのボランティアの皆様にご協力をいただいています。

PLT教室では、通常1時間の療育を行っています。お子さんと支援員が、40分程度学習した後は、残りの20分程度遊びの時間を設定しています。通常は、お子さんに一人で遊んでいただき、保護者と支援員は学習や最近の様子を話し合います。

その中でも、一人で自由に遊ぶことができるお子さんもいれば、一人ではなかなか遊べないお子さんもいます。また、保護者と支援員との話がとても気になるお子さんもいます。そういったときに、ボランティアさんの存在はとても大きなものになります。ボランティアさんがその場に来てくださり、見守る、また、お子さんによっては一緒に遊んでいただくことで、お互い安心して時間を過ごすことができます。

今回は、そんなボランティアさんのうち、4名の方に感想をいただきましたので、ご紹介します。



AYA

毎週木曜日の午後に伺っています。

ゲームやプラレールで遊びながら仮面ライダーの事、学校の事などをお話してくれます。楽しそうに遊んでいるので、私も一緒に夢中になって、あっという間に時間が過ぎてしまいます。

毎週、会える日が楽しみです。



5月よりボランティア活動をしております。

スタッフの方々の助言を貰いながら『見守り』も少しずつではありますが担当させてもらっています。十人十色と言われる人の個性ですが本当に個性的な子供達を見ていると言葉の意味を改めて考えさせられます。

やれる事は少ないですが少しでも子供達とご家族のお役に立てればと思っています。

ボランティアをさせて頂いて学ぶことは多い。PLT教室の先生方から教えて頂いた中で心掛けていること。

それは、「事前にきちんと約束をする(時計の針が〇まで遊ぼうね)。そしてきちんと評価すること(すごい、守れたね。頑張ったね。)」達成感を持って頂く工夫も大切だ。

でも何よりも「人っていいな！」と思って頂けることを目指している。気が付くと先に楽しんでいる最近の自分…。

これまで何度か、お子さんの遊びの時間に入らせていただいて、初めは、どのように関わっていいか不安もありましたが、お母さんの接し方、スタッフの方の関り方を見ながら勉強させてもらっています。

とてもかわいいお子さんで、一緒に遊ぶ時、見守っている時も、自然と笑顔になってしまいます。これからも、お子さんが安心して遊べるようにお手伝いさせていただきたいと思っています。



* ボランティアさんが入る前に…

お子さんにとって、始めて出会う人や関わる人は大変気になる、または、緊張する存在です。そのため、事前にどんな人がいつ来るのか、ということなどをスケジュールでお知らせします。

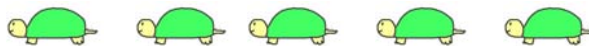
事前にお知らせしたからといって、全てのお子さんがすぐに受け入れられる訳ではありません。そのため、ボランティアさんの入り方、関わり方などには、それぞれのお子さんに合わせてスタッフと一緒に慎重に進めています。



ボランティアの皆様のおかげで、より充実した時間を過ごすことができ、スタッフ一同、大変嬉しく思っております。これからも、どうぞよろしくお願い致します！！



スマイルポッケの毎日



Aさんの 作業日課

Aさんは、文房具が大好きです。特に「のり」に対し、興味・関心の強い様子を以前から見せてくれていました。

そんなAさんにポチ袋のかざりをのりで付ける仕事を教えることにしました。

目で見て分かりやすいように手作りの道具を用い、毎回肯定的で短い言葉かけで教え、指示通り行ってくれたら一つひとつ褒めていきました。そして少しずつ量を増やしていきました。また、のりの量が多すぎた際はピンセットで余分なものを取り除くことも教えました。

3ヶ月経ってAさんはメキメキと上達されていきました。今では新しいのりを買うに行くのを楽しみにしている様子も見られ、毎回とても良い表情をされながら取り組まれています。今後は自分で作ったものを納品することも予定しています。

長い期間をかけて一つずつ積み上げていく支援をスマイルポッケでは行っております。今後も達成感や自信に繋がるように丁寧に関わっていきたいと思います。



ボランティアさんと一緒に

「いつもアルミ缶のご協力ありがとうございます。」
スマイルポッケでは引き続き、アルミ缶の回収を行っております。ご自宅に缶が1つでもありましたら、持ってきて頂けますと幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。
また、雑巾縫い、無料で行っておりますので、お気軽にタオルなどをお持ち下さい！



スマイルポッケ製品販売協力店さんご紹介



・ときめきショップありがた屋
福岡市中央区渡辺通2-6-1
西鉄薬院駅ビル1階
EL&FAX:092-717-1177
営業時間:9時~19時店休日:年末年始



・ふくふくプラザ1F
授産製品展示コーナー
福岡市中央区荒戸3丁目3番39号
TEL:092-731-2929(総合受付)

・ACB deux(飲食店)
)福岡市中央区大名2-1-5 公建ビル3階
TEL:092-732-3152
定休日:日・祭日



・横山小児科
福岡県春日市春日原東町3-36
TEL:092-581-1203
休診日:土午後・日・祝

・カットメイク春(美容院)
宗像市泉ヶ丘2丁目14-2
TEL:0940-35-2745 定休日:土・日

スマイルポッケ製品 感覚グッズ ネット販売

<http://www.npotouch.jp/index.htm>
ホームページからどうぞ！

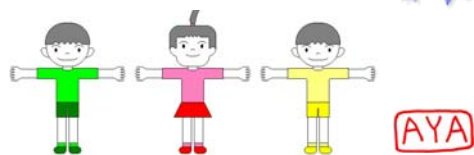


和紙製品・かわいいイラストの製品があります

他にも色々な感覚グッズがあります

リレーエッセイ

支援員としての思い



私が支援員になって12年目になりました。

勤め始めた頃は何も分からず、無我夢中にやっていたように思います。

最初は自閉症者への知識も本に書いてある程度だったのですが、今では随分と利用者の方を理解し支援できるようにやっとなってきたかな？といった感じです。

自立支援法に伴い、シミュレーションの段階で、私の勤務している施設の利用者も事業移行後施設で暮らせないという人がたくさん出てきました。

保護者は、「この子は地域に出て暮らせない。施設で暮らすことしか考えていません。」といわれる方が大半です。私が受けた、相談支援従事者研修やサービス管理責任者の研修では、『本人の意思を尊重して！！』とよく耳にします。しかし、私の施設の利用者は意思を確認するのは困難な方が多いです。会話が出来たとしても本人の心の中が言葉通りなのか判断が難しいです。

最近よく考えます。「利用者にとっての本当の幸せはなんだろう・・・。」と。

地域で暮らすことが本当の幸せ？施設で暮らすことが本当の幸せ？

答えはまだまだ出ませんが、私が携わっている利用者全ての方が納得できる結果になればいいなと思っています。

こだわり転じて



我が家の長男は、特別支援学校小学部の4年生です。重度知的障害と重度自閉症という重い障害を持っています。そんな長男はトイレが大好きです。自閉症特有のこだわりとも言いますが……。今日は長男のトイレへのこだわりについて書きたいと思います。

排泄の自立とともにトイレへのこだわりが始まりました。3歳の頃は、自宅以外のトイレでは排泄ができずに、長時間の外出はできませんでした。4歳ぐらいから小便のみ外出先でもできるようになりましたが、少し違うトイレだとパニックになっていました。私から見ると便器の色が黒かろうが、タンクがなかろうが便器は便器なのですが、長男にとっては大きな問題だったようです。

外出すると、行く先々でトイレ巡りが始まります。また男性トイレ・女性トイレ・障害者用トイレと目に付くトイレを全てチェックします。印象に残っているのは、パーキングエリアのトイレと浅草・浅草寺のトイレです。人が多い場所なので、男性の小便用便器がずらりと20以上並んでいます。長男は狂喜して、他の方が用を足すのをしげしげと観察したり、ちゃんと水が流れるか全ての便器のボタンを押して回ったりと大忙しです。おかげで、私達家族は、1時間近くもトイレの外で待たなければなりません。

小学生になっても、大便是自宅か学校など慣れたトイレでしかできない状態でした。そんな中、3年生の夏休みに転機が訪れました。スペースワールドへ遊びに行き、長男は大喜びで楽しく過ごしていました。が、昼食後に便意をもよおしました。長男は、お尻を押さえ、トイレサインをしますが、自宅までは1時間以上かかります。「家に帰るか」「スペースワールドのトイレで用を足すか」の選択を迫られた長男は、スペースワールドのレストランのトイレで大便の排泄にチャレンジし、みごと成功しました。これをきっかけに、色々なところで大便ができるようになり、苦手だった和式トイレもクリアしました。この頃より、便器だけでなく、ウォシュレットや内装などのインテリアにも興味が出てきて、トイレ全体を観察し、違いを楽しめるようになったようです。

4年生の現在も外出先でのトイレチェックは相変わらずですが、女性トイレに入り込むこともなくなり、順番も守れるようになり、他の方へあまり迷惑にならないように、トイレを利用できるようになりました。出てくると便器や付属品を絵に描いて、細かい違いを母に説明してくれます。なかなかの観察力で、メーカーのパフレットと照らし合わせ[フチなし][小さい][リモコン]などと特徴を教えてください。また記憶力もなかなかで、[ゆめタウンのトイレ][マクドナルドのトイレ]など色々な場所のトイレをずらりと描きます。

病院などで、待ち時間が長い時などは、トイレに行く→便器を観察する→絵に描く、と待つことが苦手な長男は、待ち時間を楽しく過ごせるようになりました。また最近では、パフレットに記載されている便器のお手入れやお掃除方法を見て、トイレのお掃除もしてくれます。トイレ掃除は将来のお仕事につながるかも・・・と密かに期待しています。小さい頃から長男のこだわりには泣かされてきましたが、こだわりも悪いことばかりじゃないと思える今日この頃です。

特別支援学校の小学部6年生です。



AYA

早いもので、来年は中学部に進学します。毎日の生活はスケジュールのおかげで、大体落ち着いています。

2年生の時に荒れて奇声が出ていたのは、何だったんだろう？と思えるくらいに出なくなりました。

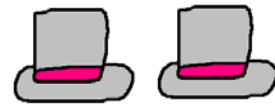
それは、おそらく毎日の生活の見通しと自分の要求が相手に通じることが解ったから？奇声で訴えなくてもよくなったから？でも悔しい事はいろいろあって、今でも服の襟口をかんでしまいます。母親の見てない所で、台所の蛇口で水をバシャってやってしまいます。体温が高いので、みんなより暑いんです。だから...

言葉を聞きとる事が出来ないで、言葉でいろいろ言われると、解らなくて悔しいようです。やっぱり服をかんでしまいます。相手に対して、おこってしまいます。横で見ていると、「言葉で言わないで、私に見て解るように説明して」と言ってるみたいです。相手の言っている事にちゃんと答えようとしているのに、解らない...こんな事が続くと、言葉をかけられる事自体が嫌になってしまうだろうなと思います。解りやすい環境が、いちばんなんですね。本当に必要な援助が欲しいんです。

最近は無理をさせないという事を心がけています。(母親が理解してなくて小さい頃から、随分嫌な事や、無理な事をさせてきたように思い、反省しています。)トラウマを作ってしまった事もあります。今でも、お風呂のお湯に入れません。これは完璧にトラウマです。

これが最近の娘の様子です。またどこかでお会いしたら、お声をかけて下さい。挨拶程度なら大丈夫なので... 宜しく願います。

あの頃を忘れずに



今から18年前。娘が1歳4~5ヶ月、お姉ちゃんが幼稚園の年中に入園頃のことです。

お姉ちゃんの幼稚園は、送迎バスがないので地域で集団登園をしていました。集合の場所まで、毎朝、お姉ちゃんと一緒に連れて歩いていましたが、遅くなると車で送っていました。

駐車場から車を出すには、大きな鉄の門を開けなければならず、重たい鉄の門を押していると、学生服を着た男の子が、手伝ってくれるようになり、車を出すことが解ると開けてくれるようになりました。

その男の子は、社宅の前のバス停から、東福岡養護学校に登校するためにバスを待っている中学生(高校生?)でした。

その頃の私は、「障がい者には理解のある」と思いながらも、特別障がい者に対して関わることはありませんでした。

毎朝、ニコニコしながら門を開けてくれる男の子に「養護学校に行っているんだ。素直そうだな。」と思いながら感謝していました。

その時間帯を見ていると一人でバス停に来ている子、お母さんと一緒に来ている子、一人で来ているようだけどお母さんが後から付いているような子がいましたが、どのようにバスに乗っていたかまでは、見ていませんでしたし、帰りのことまでは考えもしませんでした。

一人のお母さんと一緒に来ている女の子は、とても可愛い子でしたが、急に走り出したり大きな声が出たりしていて、それを見た私は、「見た目可愛いのに大変だな!」と思っていました。

それから半年後に、我が娘が広汎性発達障害と診断(診断名は告知されず)され、母子通園の「めばえ学園」へ通うようになりました。そうした頃も、駐車場の門を男の子がニコニコしながら開けてくれました。でも、その姿が、初めの頃と同じような目で見れてない私がありました。自己嫌悪になりがちで、門をあけてくれ男の子へ感謝していた気持ちも、上から目線で見ていたようで自分がいやになっていました。

でも、なかなか障がい受容ができませんでしたが、時間がたち、しっかり障がいを持つ子の母となった私にとって、あの頃の「養護学校に行っているんだ...」「大変だな」と健常児の親として、障がいを持った子、親子に対していただいた気持ちを、忘れないようにしようと思っています。世の中は、健常児の親御さんのほうが多いのですから。

今の私なら、バス停にいる子達を見たら、「公共の交通機関で登校しているんだ!バスの中、降りる時、帰りはどうしているのかな?」など色々気になります。

障がいのある人に関わっていると「周りの人も障がいに理解がある。理解しなきゃいけない」と思いがちになりそうで、あの頃のことを思い出しています。



井上教授の徒然



四国学院大学自閉症研究会での出会い



西南学院大学 井上哲雄

30歳を目前にして、僕が初めて赴任したのが、四国学院大学であった。そこにはローナ・ウィングの『自閉症との接し方』を訳した社会福祉学の久保紘章先生がいて、「自閉症研究会」という学生サークルもあった。そのことがその大学に就職を決めた理由の一つでもあった。ローナ・ウィングは、イギリスの児童精神科医で、自分も自閉症の娘を持っていて、『自閉症との接し方』という本は、1970年代の初め世に出回っていた数少ない自閉症の専門書の中で、特に自閉症と一緒に生活し、しつけや子育てに悩む家族にとって、具体的な問題のとらえ方や、接し方の基本をわかりやすく書いたガイドブックとして他に類を見ないものであった。四国学院大学に赴任してから、久保先生と一緒に、イギリスのロンドン学派といわれる自閉症の研究者であるウィングやラターの研究書を、自閉症にかかわっていた仲間たちとともに翻訳していった。その当時(1970年代)自閉症のとらえ方が、情緒障害から大きく転換して、「脳の機能障害が原因となって、言語や認知、社会性の発達に歪みがきている発達障害で、特徴を理解しての特別工夫された教育によって発達を促すことができる。」という自閉症観へと変わっていったが、その啓発にささやかながら貢献できたと思っている。

久保先生は、社会福祉の専門家で、大学があった地域での「香川県自閉症親の会」を家族の人たちと立ち上げて、大学の久保研究室にその事務局を置いて、家族の人たちと日常的に親しくかかわっていた。久保先生は、あまり丈夫でない病気がちのほっそりした先生だった。少しはにかむように微笑み、写った写真を見るとやや首を傾げがちにして映っていることがおおかった。決して威張ったり、偉ぶったりすることのない先生で、たいへんやさしい柔和でソフトな感じの先生だった。多くの自閉症関係者や専門家たちとの交流もあり、また学生たちからも大変慕われていた。その研究室には、自閉症研究会の学生や、ゼミの学生などが、いつも出入りして、なかには入りびたりの学生もいて、夜遅くまでにぎわっていた。

久保先生と一緒に自閉症研究会の学生たちと、夏休みには五色台で親の会のキャンプをしたり、学期中には近くの善通寺病院で、自閉症児のグループ治療をしたりしていた。その「自閉症研究会」の学生リーダーで、4年生の元気で明るい女の子に出会って、行事ごとの打ち上げコンパなどで、よく酒を酌み交わしているうちに、話が合い気心が通うようになり、一緒にいて気が休まる感じもして、次第に仲良くなった。それが今の奥さんとの出会いであった。共通の関心として自閉症の子どもに対するひたむきな情熱が感じられ、また活発に遊ぶ元気さ、またやさしい気配りのできるところなど、自分にはない魅力を感じたのだった。大学を卒業して、東京学芸大学の「情緒障害児教育1年課程」に学び、養護学校の先生として、自閉症を教育したいと将来の計画を持っていたのだが、僕のプロポーズを受けて、結婚することになった。その時のプロポーズの言葉は、不思議なことに2人とも覚えていないのだが、めでたく結婚してもう30年以上無事続いている。

箱崎散策



今年3月20日にオープンされた、TOUCH に
ほど近いパン屋さんのご紹介です。

元々、オーナーのご主人のお祖父さん(箱崎宮のビードロ；博多ちゃんぽんの製作者である小川勝男さん)のご自宅を改装、2部屋を使用されて開店されることになったとのことでした。

オーナーの小川さんはパンをこよなく愛し、パン教室やパン屋で働かれていたご経歴も持たれながら、ほぼ自己流でパン作りをされているとのことでした。できるだけ添加物を使わず、安心して食べてもらえるパンを作られています。

パンにはイーストフードを一切使われず、生イースト、ドライイーストを使用されています。バター、塩にもこだわりが！生地には卵が使われていないため、アレルギーなどの気になるお子さんにも安心です。

おススメはバゲット！低温で長時間熟成させ、粉の旨味を引き出しています。高温で一気に焼き上げることにより、表面はパリッと、中身は水分を残してモチリと、触感抜群です。

その他、数に限りはありますが豊富な種類のパンが置いてあります。どれも丁寧に作られていて、口コミで評判が広がり、売り切れは早いとのこと！オーナーのパンに対する愛情を感じる一品一品です。

お客さんが次々と来られていました！

★JR箱崎駅と吉塚駅のほぼ真ん中、粕屋総合庁舎すぐそば

手作り ぱん工房 粉の実

cona no mi

福岡市東区箱崎1丁目18-8

TEL (092)641-7347

営業日 月・火・木・金

営業時間AM11:00~17:00頃

駐車場有

書籍のご紹介

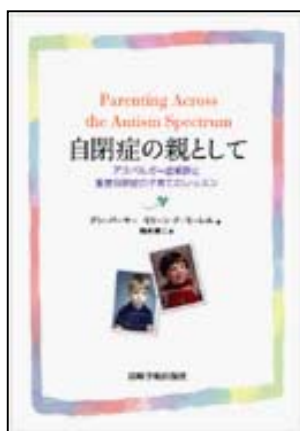


自閉症の子どもを持つ親のための ペアレントメンター・ハンドブック

・著者 アン・パーマー、服巻智子、江口寧子
ASDヴィレッジ出版 価格：1,890円

ペアレントメンターは、自閉症を持つ子どもを育てた経験のある親が、若い親たちの心理的サポートと道しるべをすることのできる人材養成です。

ポイントは、「やりたい人が向いているというわけではない」ということです。地元でのメンター活動にも、また、障害種が違って、きっと何か役に立つ情報が多数含まれています。多くの支援者にも読んでいただきたい本です。



自閉症の親として

—アスペルガー症候群と重度自閉症の子育てのレッスン

・著者 アン・パーマー、モリーンF.モーレル
梅永雄二(翻訳)
岩崎学術出版社 価格：2,310円

梅永氏あとがきより

「この本は自閉症者およびその家族をとりまく周りの理解、支援について訴える名著といつていいでしょう。この本によって、自閉症と関わる専門家だけではなく、多くの一般の人たちに対する自閉症の理解が進み、また自閉症と診断されたお子さんを持つ多くの保護者が勇気づけられることになれば、訳者として何よりの幸せです。」



続々 自閉っ子、こういう風にできてます！ —自立のための環境づくり—

・著者 岩永竜一郎 ニキ・リンコ 藤家寛子
花風社 価格：1,680円

自閉っ子の感覚・運動の問題が専門の岩永先生と「自分を科学する」のが上手なニキさんが「自閉っ子が働ける環境づくり」について話し合う。衣食住の管理＋労働生活の知恵とヒントが満載！



自閉症の人の人間力を育てる

・著者 篁一誠
東京都自閉症協会(編集)
ぶどう社 価格：2,100円

臨床心理士として40年以上にわたり、自閉症の人たちと関わり続けてきた中から生み出された、著者はじめての本です。

親の方たちにとっても、現場の支援者の方たちにとっても、実際に役立つ、たくさんのヒントがぎっしり盛り込まれています。

ご存知ですか

世界自閉症啓発デー

平成19年12月18日の国連総会において、毎年4月2日を

「世界自閉症啓発デー」(World Autism Awareness Day)とすることが決議されました。



世界各地において自閉症に関する啓発の取り組みが行われています。これに対応し、世界自閉症啓発デー・日本実行委員会が組織され、自閉症をはじめとする発達障害について、広く啓発する活動を行っていきこととなりました。シンポジウム、ポスター・パンフレットの配布、ホームページを通じた啓発等の活動は、多くの皆様に自閉症について理解していただくことを目的としています。

世界自閉症啓発デー 日本実行委員会 公式サイト

<http://www.worldautismawarenessday.jp/htdocs/>

福岡ファミリー・サポート・センター

「子育てを応援してほしい人」と「子育てを応援したい人」が、地域のなかで育児の相互援助活動を行う福岡市在住または勤務の方の会員組織です。

(対象児 3ヶ月以上小学6年生未満)

- ・仕事の都合で保育所への送りや迎えに行けない...
 - ・技術や資格を得るため講習会に参加したい...
 - ・お兄ちゃん(お姉ちゃん)の授業参観に行きたいけれど下の子がいて...
 - ・最近、育児に疲れ気味...ちょっと気分転換に買い物に行きたいなあ。
 - ・急な用事で出かけなければ、でも放課後の子どものことが心配...
- こんな場合に、地域の中で子育てを支援していこうという子育て支援のネットワークです。

※詳しくはネット、または、サポートセンターにお問い合わせ下さい。

http://www.fukuoka-shakyo.or.jp/work_service/center_family_support.html

福岡市社会福祉協議会 福岡ファミリー・サポートセンター本部 TEL 092-736-1116

寄付を頂きました皆様、賛助会員の皆様、
ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

2009年1月～7月10日

寄付	原口良一様	神戸金史様	小西憲次様	瀧井正人様	(順不同)		
賛助会員	原田愛子様	小林仁様	渋谷真理様	清水あい子様	生沢興一様		
濱田尚志様	高橋司様	内田博昭様	猿川明子様	小林みえ子様	森川進様		
里見哲夫様	神戸昌壽様	高橋京子様	柳澤恵子様	神戸真也様	神戸万貴子様		
小川正様	小川よし子様	小沢勝一様	大森裕一様	古賀光江様	小沢美恵子様		坂本乃生枝様
鮫島哲郎様	鮫島一美様	鮫島仁彦様	鮫島葉子様	鮫島卓也様	鮫島ハマ様		小井土トリ子様
小山淳旨様	中島久様	時正義治様	緒方俊一様	緒方昌子様	井門正彦様		相川節子様
時任イツ子様	時任義裕様	時任キヨ様	神戸邦男様	漆間めぐみ様	大藤文子様		大河原順次郎様
相川清治様	田村浩三様	谷脇雅子様	東間一喜様	神戸洋子様	吉田ひとみ様		江上しのぶ様
神戸守雄様	高橋恵子様	神戸貞雄様	神戸郁江様	神戸修身様	田多野裕子様		徳永真由美様
三浦初音様	小泉博様	小泉文代様	小島千夏様	青柳与志子様	小池ユキ子様		有賀修様
立川文子様	船越勝子様	大西睦子様	尾辻智子様	秋山貴代美様	中牟田香子様	日下部真理子様	
渡辺亮一様	田口博美様	黛光恵様	城朋子様	知念美紀恵様			

♪皆様の温かいお志は、TOUCHの活動で大切にさせていただきます。 ゆうちよ振替口座01790-0-117757

編集後記・・・TOUCH通信も、今回で第10号という節目を迎えることができました。これも、皆様のおかげと感謝申し上げます。これからも、自閉症や発達に障害がある方々、そのご家族のために支援活動を行っていきたいと思っております。